

教育事務所だより

平成 29 年 9 月 20 日発行

ワーク・ライフ・バランス

調整監 葛西 秀也

「人生二度なし」

昨年度の所報にも書かせていただいた「人生二度なし」は森信三先生の言葉です。座右の銘を聞かれればこの言葉を挙げますが、そのような気概でいつも生活しているとは言えない弱い自分が時に嫌になります。楽なことや楽しいことに流され、本当にやらなくてはならない苦しいことから逃げようとする気持ちが強いため、自戒のための座右の銘にしています。さてその人生にはいろんなステージがありますが、今見つめざるを得ないのは職業人としてのステージです。定年退職が少しずつ近づいてきていますが、昔のように定年退職をもって職業人ステージのゴールとは言えない時代となってしまいました。年金の空白期間のせいですが、文句を言っても仕方ないので、仕事から解放された後の人生に最大限の期待を込めつつ、残された人生上の仕事についてはまだこれからも考えていく必要がどうやらありそうです。

「笑いながら仕事がしたい」

さてその仕事のことでありますが、大雑把に一日の 1/3 を睡眠、1/3 を仕事、1/3 をその他諸々として考えると、人生をより楽しく過ごすためには仕事をどれだけ楽しめるかに尽きると思います。笑いながら仕事がしたい。笑いは伝播するので、特に管理職が仕事を楽しむことが笑いのある職員室の条件だと思います。大阪梅田の学生向けラウンジのキャッチコピーに「『いい会社に就職したね』は一瞬。『楽しそうに仕事をしているね』は一生」と言うのがありましたが、本当にそう思います。しかし、楽しい仕事にするためには、努力が必要なのは言うまでもありません。学び続けて自己成長を図る中で、仕事に対する自己有用感が生まれるからです。これは当たり前のことですが、努力を意識しているのとしていないのでは大きな違いが生じるので、今日一日頑張ろうと自分には言い聞かせています。

「趣味はありますか」

小・中学校のリーダー的先生と面接する機会がありました。教育以外で興味を持っていることや趣味としていることを聞きました。多くの先生が即答できなかつたり、教育の延長であったりしたのがとても気になりました。前述のとおり、仕事にやりがいや生きがいを見出すことが充実した生活や人生を送るために必要なことですが、仕事と生活のアンバランスは良いことは一つもありません。趣味が思いつかない原因として考えるに、一日の半分以上を仕事に費やす長時間労働が常態となっていることがあるのではないかと思います。4月の鴨木教育長メッセージには「教職員のワーク・ライフ・バランスを図っていくことが大切であり、それが島根の子どもたちに質の高い教育を提供する基盤である」と県教委の基本認識が明記されています。これからはそこに向けて一歩ずつでも前進させなければならないと強く思っています。

「そして人生二度なし」

学校訪問で各校の大変な努力や教職員の身を粉にして頑張られている様子を見聞き、本当に頭の下がる思いがいたしました。しかし、仕事のために何かを犠牲にしているとしたら、大切な人生に影をさします。仕事と生活が両立しているのか、今一度振り返ってみたいと思います。余暇の過ごし方で生活の質も向上します。東京都港区の幼・小・中学校が1学期末に「先生だって、休むのは当たり前」の趣旨のプリントを配布したニュースを見ましたが、長時間労働を見直すきっかけ作りのアプローチとしてはある意味参考となる取組に感じました。(https://bengo4.com/internet/n_6497/)「人生二度なし」です。すべての教職員の皆様が心身ともに豊かな生活を送られ、誇りをもって働くことができるよう、地教委と連携協力して学校へのサポートをしていきたいと考えています。

授業の中で行う積極的な生徒指導

次期学習指導要領では、総則において、小学校、中学校とも「学習や生活の基盤として、教師と児童（生徒）との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」と定めています（現行の中学校学習指導要領総則には記載がありませんでした）。このことは、児童生徒にとって、いかに居心地の良い学級づくりが学習や学校生活の基盤となるかを示しているといえます。



また、生徒指導提要には生徒指導の意義は「児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す」ことで、生徒指導は「学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要です。」とあります。

そこで、児童生徒にとって学校生活の大半の時間を占める授業を、学力向上という側面からだけでなく、積極的な生徒指導の視点をもって見直し「学級づくり」につなげてみてはどうでしょうか。

★生徒指導充実のための三つのポイントをいかした授業と温かい学級づくり



生徒指導充実のための三つのポイントとは？

- 1 子どもに自己決定の場を与える
- 2 子どもに自己存在感を与える
- 3 共感的人間関係を育成する

生徒指導充実のための三つのポイントをいかす支援活動の例

自己決定の場を与える	自己存在感を与える	共感的人間関係を育成する
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども自身に学習目標を立てさせる。 ○自分の考えを持たせる。 ○自分の考えを皆の前で表示する。 ○考える時間を十分に与える。 ○子どもの自己評価の場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの考えのよさを見つけ、誉める。 ○つまずきが、皆のためになったことを評価する。 ○どんな発言も取り上げ、無視をしない。 ○全員の提出物にコメントを書いて返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの発表に、うなずきで応える。 ○つまずきや誤答を授業に生かす。 ○友達の発言をしっかりと聞かせる。 ○協働して活動する場面を多く設定する。

（平成29年度生徒指導実践研修：配布資料より一部抜粋）

【三つのポイントを意識した取組の例】

- ・三つのポイントに応じ、ペア学習やグループ活動を取り入れる。
- ・アンケート QU の結果を受け、自尊感情や学習意欲の低い子に配慮した授業を展開する。

～特別支援教育に関わる学校訪問指導について～

今年度の特別支援教育に関わる学校訪問指導は、以下のように計画をしています。

【今年度の特別支援教育に係る学校訪問】

- ①特別支援学級新設校訪問指導 ②特別支援学級及び通級指導教室
新任担当者対象訪問指導 ③にこにこサポート事業実施校訪問指導



★特別支援学級・通級指導教室★

今年度、管内の新設9学級と、初めて特別支援学級を担当される新任の31名の先生を対象とした学校訪問指導を行っています。

児童生徒の障がいの特性を考慮した教育課程の編成や授業の在り方という視点から、授業公開は「**教科等を合わせた指導**」または「**自立活動**」でお願いしています。

通常の学級に在籍している特別な支援を必要とする児童生徒への支援の方法、どの児童生徒にとっても分かりやすい授業など、特別支援学級での取組から学べることは多くあります。この学校訪問指導を通じて、各学校の特別支援教育に対する理解を広げ、深めていただきたいと思います。

★にこにこサポート事業実施校★

事業の状況把握を行うとともに事業趣旨の理解を図るために、すべての管内の配置校（通常の学級の小学校30校、特別支援学級12学級）への学校訪問指導を実施しています。

どの学校も非常勤講師による一斉授業での個別支援や取り出しの授業が適切に行われています。さらに支援の充実を図るために、「**打ち合わせの時間の確保**」と「**個別の指導計画に基づいた指導**」の2点をお願いしています。打ち合わせの時間を定期的に確保し、適切な個別支援のあり方を模索することで、支援の効果もあがります。学校の実態に合わせ、課題改善に向けて検討していただければと思っています



算数授業改善推進校事業 授業公開のご案内

1学期、松江市立古江小学校で算数授業リーダーを対象とした、5年「小数のわり算」の授業公開がありました。授業者は、子供の“困り感”を取り上げ、友達と対話することへの“必要感”を高めながら、計算の仕方を考えさせる学習を展開されました。既習事項を想起したり、図をかいたりするなど、これまで身に付けてきた力を駆使して、粘り強く解決に向かっていく子供たちの姿がたくさん見られる授業となりました。

「その問題の解き方を分かりやすく教える」という視点だけでなく、「問題を考えることを通してどのような力を育てるのか」という視点で授業をつくることの大切さが示され、今後の授業改善の在り方への大きな示唆をいただくこととなりました。

2学期以降、古江小学校、安来市立社日小学校でたくさんの授業研究会が計画されています。多くの先生方にご参加いただきますよう、お願いいたします。

- 9月21日(木) 社日小4年 「面積」：安来市算数授業力向上実践研修として実施
10月18日(水) 古江小2年 「三角形と四角形」：松江市教研算数部会として実施
10月19日(木) 社日小6年 「比例と反比例」：算数授業リーダー対象
11月30日(木) 社日小3年 「分数」：松江市及び安来市小中学校対象
1月25日(木) 古江小1年 「単元未定」：松江市及び安来市小中学校対象

